

CSO・CIOメッセージ

持続的な企業価値の拡大を 計画的に推進していきます。

代表取締役
専務執行役員 CSO・CIO(兼)CP・CITIC戦略室長
岡本 均

商社2強時代を牽引

2015年度に開始した中期経営計画「Brand-new Deal 2017」は、「財務体質強化」と「連結純利益4,000億円に向けた収益基盤構築」の2つの基本方針を掲げ、3力年で行う計画としました。この3力年計画の達成に向けて、初年度となる2015年度においては、CITICへの大型投資を踏まえた資産入替を加速すると共に、将来懸念を一掃する損失処理を断行した結果、連結純利益は2,404億円となりましたが、資源価格の下落に伴う他商社の大規模な減損処理もあり、総合商社No.1となりました。

中間年度となる2016年度の連結純利益は、前期比1,118億円(47%)増益の3,522億円となり、史上最高益を達成しました。一方で、資産の低重心化を更に進めると共に、NET DERや株主資本比率や実質営業キャッシュ・フロー等の多くの財務指標についても過去最高値を記録したことから、「財務体質強化」については1年前倒しで達成することができたと考えています。

そして総仕上げの年となる2017年度においては、2番目の基本方針である「連結純利益4,000億円に向けた収益基盤構築」に関しても、史上最高益の連続更新となる4,000億円を確実に実現する予定です。掲げた目標はきちんと達成する有言実行の経営を実践し、商社2強時代を牽引していく所存です。

次期中期経営計画に向けて

2017年度は、現中期経営計画のゴールの年であると同時に次期中期経営計画に繋がる重要な年と位置付けて



おり、2017年度計画のサブタイトル「進化する無数の使命、成長 その先へ」に示した通り、新たなステージにおける当社の「あるべき姿」についても現在検討を行っています。

今後は、4,000億円レベルの収益規模を安定的に稼ぐことのみならず、「利益の質」にもこだわった経営を実践していくことが大切だと考えています。

例えば、特定の事業会社の利益に依拠するのではなく、一つ一つの事業会社が不断の努力により企業価値を上げていくことで、グループ全体をより強固なバリューチェーンを形成する集団にしていきたいと思います。そのためには、当社の強みである高いROEといった効率性指標に加え、指標には表れない社員の労働生産性や働き甲斐、グループ間のシナジー向上等が重要であると考えています。

非資源分野、とりわけ生活消費分野に強みを持つ当社にとって、AI(人工知能)、IoT(Internet of Things)、フィンテック(ファイナンス+テクノロジー)、VR(Virtual Reality)といったITの活用は、「無数の使命」に大きな広がりをもたらします。当社の子会社である伊藤忠テクノソリューションズ(株)と一体となり、AIの技術を他の事業に応用する取組みを既にスタートしました。

2018年度期初に公表予定の次期中期経営計画は、現在注力している(株)ファミリーマートの周辺ビジネスの拡大やCITIC/CPグループとのシナジーの追求と併せ、このような新しい時代の変化にも柔軟に対応した計画にしていくことで、持続的な企業価値の拡大を実現していきたいと考えています。